



**HOKKAIDO**  
UNIVERSITY

2016年7月23日

科研・基盤A

「不確実性と多元的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究」

第1回研究会

北海道大学  
宮内泰介

科研・基盤A「不確実性と多元的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究」  
研究メンバー(順不同)

【分担者】

宮内泰介(北海道大学)  
安田章人(九州大学)  
関礼子(立教大学)  
丸山康司(名古屋大学)  
岩井雪乃(早稲田大学)  
鬼頭秀一(星槎大学)  
菊地直樹(総合地球環境学研究所)  
佐藤哲(総合地球環境学研究所)  
笹岡正俊(北海道大学)  
三上直之(北海道大学)  
山本信次(岩手大学)  
松村正治(恵泉女学園大学)  
菅豊(東京大学)

西城戸誠(法政大学)  
田代優秋(和歌山大学)  
浜本篤史(名古屋市立大学)  
富田涼都(静岡大学)  
福永真弓(東京大学)  
鈴木克哉(さともん、北海道大学)

【研究協力者】

平野悠一郎(森林総合研究所)  
寺林暁良(農林中金総研)  
武中桂(北海道大学)  
金城達也(北海道大学)  
高崎優子(北海道大学)

.....

.....

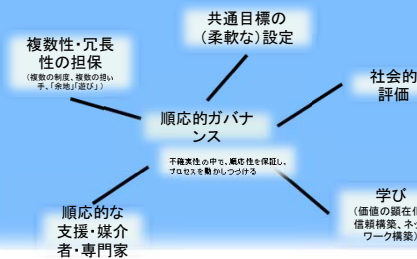


HOKKAIDO UNIVERSITY

# 本日(2016.7.13)の目標

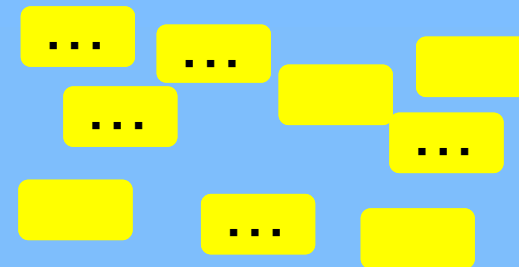
## 目標1

この科研の大枠のフレームワークを共有すること



## 目標2

この科研で今後議論になりそうなキーワードをたくさん生み出すこと





**HOKKAIDO**  
UNIVERSITY

# この科研で考えたいこと

北海道大学  
宮内泰介

# なぜ環境保全是うまくいかないのか？

- 意識が低いとか（「だから啓発活動を」）、制度がしっかりしていないからとか（「だから行政がちゃんとしてくれなきゃ」）、お金がないからとか（「だからより多くの予算を」）、といったアプローチはとらない。硬直的なしくみを志向するのはダメ。



- なぜ環境保全是うまくいかないのか？

1. 多元性の中での  
価値のズレ

2. 科学の不確実性

3. 合意形成の難しさ

社会も自然も複雑であり、かつダイナミックに動いている



社会も自然も複雑であり、かつダイナミックに動いている



順応性 (adaptability) が鍵！



順応的ガバナンス (adaptive governance)

＝環境保全や自然資源管理のための社会的しくみ、制度、価値を、その地域ごと、その時代ごとに順応的に変化させながら試行錯誤していく、柔軟性をもったプロセス重視のガバナンスのしくみ

科研・基盤A「不確実性と多元的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究」

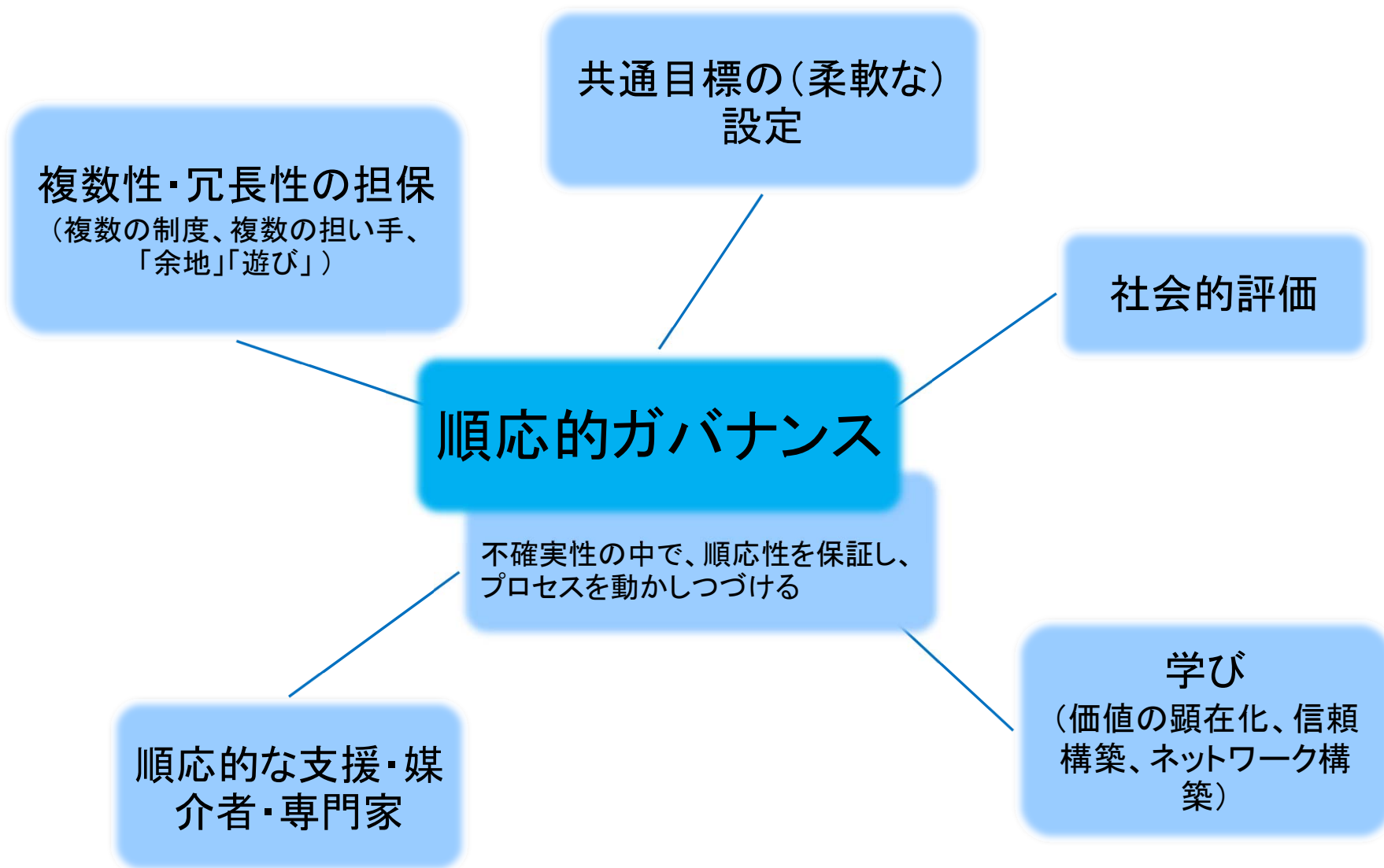
順応性 (adaptability) が鍵！



しかし、順応性はやっかい (に見える)



どうすれば順応性を保ちながらプロセスを動かしつつづけられるか？



科研・基盤A「不確実性と多元的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究」



## 本科研で考えたいこと

**(1)** 引きつづき、順応的ガバナンスの要件＝順応性を保ちながらプロセスを動かしつつづけられる要件、の探求

**(2)** それ以外の探求

**(2-1)** 順応性以外の軸の探求

**(2-2)** 社会学(社会科学)2.0へ

**(2-3)** 他に探求すべきテーマ。また、新しいフレームワークの提示



## 本科研で考えたいこと

(1) 引きつづき、順応的ガバナンスの要件＝順応性を保ちながらプロセスを動かしつつづけられる要件、の探求

(2) それ以外の探求

(2-1) 順応性以外の軸の探求

(2-2) 社会学(社会科学) 2.0へ

(2-3) 他に探求すべきテーマ。また、新しいフレームワークの提示



# 前科研でのフレームワーク

	多元的な価値、グローバルな価値とローカルな価値	レジティマシー(社会的な承認のされ方)	合意形成(の理論と技法と応用)	文脈作り・プロセスデザイン・プロセスマネジメント・評価	アクションリサーチ(市民調査・聞き書き・ふれあい調査・質的調査)	研究者・外部者の役割	知識の流通	歴史・環境史	.....
自然再生									
自然資源利用									
野生動物管理・獣害									
アンダーユース問題									
産業(農林水産業、観光)									
再生可能エネルギー									
災害・防災・復興									
リサイクル									
.....									

多様な主体が使える社会的評価ツールキットの構築

アクター、ネットワーク、プラットフォーム、特定の仕的評価、

住民にとっての野生動物管理

多元的な専門家のあり方。研究者の順応的なかわり

プロセス管理：(堅い管理と柔らかい管理の、および、政治と生活・住民活動の間の)「接ぎ手」としてのミニ・パブリックス(熟議型市民参加)

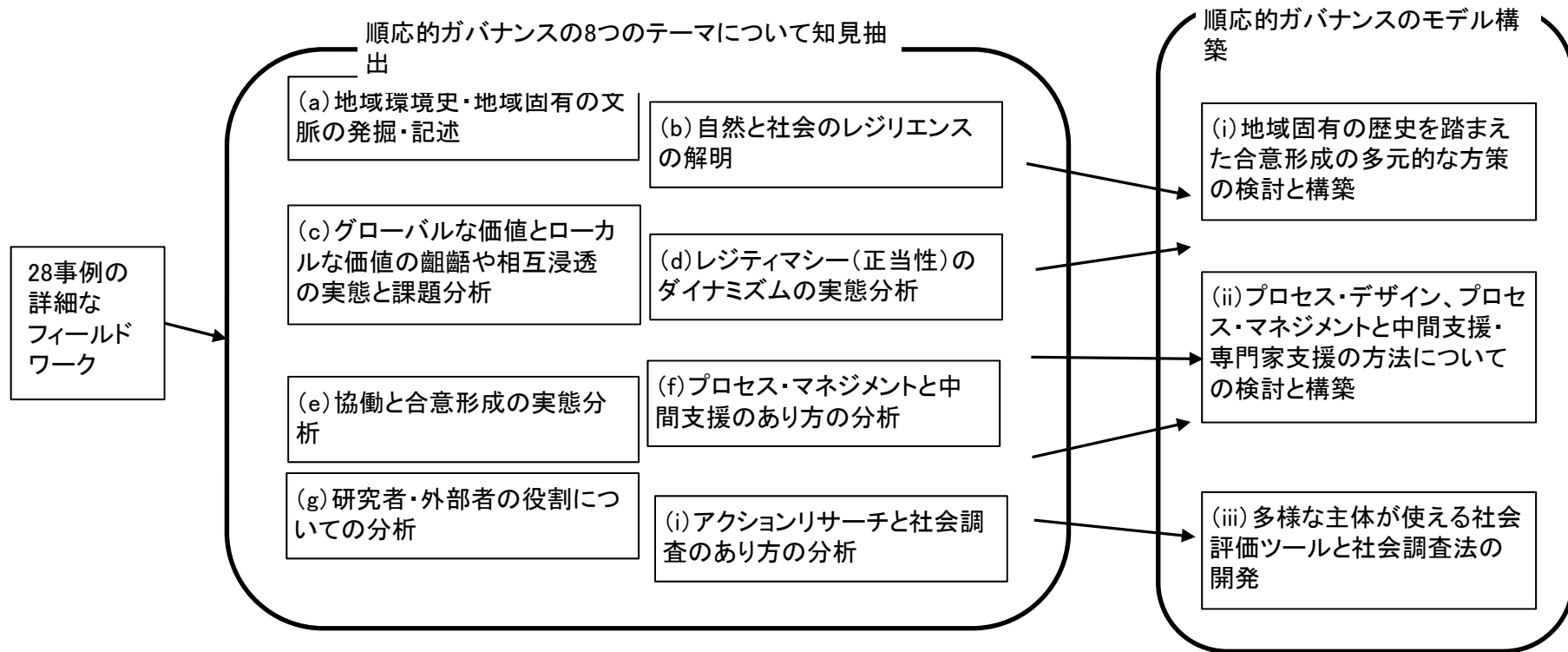
地域資源活用、再生可能エネルギー

水産・農業資源とガバナンス

多元的な価値、社会的承認、しか、中間支援とプロセス管理

景、ファイナンス、手続き的公正と実験的手法

# 科学研究調書上の計画



# 科研研究調書上の計画

基盤A・B (一般) - 4

+

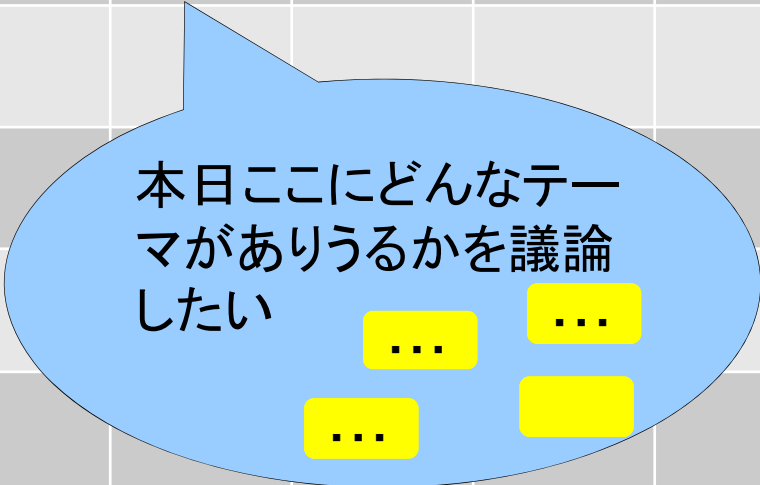
## 研究計画・方法 (つづき)

表・調査対象地と研究テーマ

ジャンル	地域・対象	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	主たる担当者
自然資源管理	静岡県由比・蒲原 (サクラエビ資源管理)	○	◎			○		○		富田
	徳島県徳島市 (農業用水と自然資源管理)			○		○	◎	○	○	福永
	長崎県対馬市舟志 (自然資源利用)	○	○	○		○	◎	○		松村、菊地
	沖縄県やんばる地域 (漁業・森林)	◎	○	○			○		○	宮内
	米国カリフォルニア州 (サケ資源管理)			◎	○	○			○	福永
野生生物管理	北海道鶴居村 (タンチョウヅル保護)	◎	○			○	○		○	笹岡、宮内
	北海道知床半島 (世界遺産と野生生物)			◎	○	○	○	○	○	菊地、宮内
	岩手県盛岡市猪去地区 (獣害対策)	○	○			◎	○	○	○	山本
	岩手県宮古市田老 (サケ増養殖)	○	○	◎	○		○		○	福永
	千葉県鴨川市 (獣害対策)			○		◎		○	○	岩井
	兵庫県豊岡市 (コウノトリ)	○	○	○			○	○	◎	菊地
	兵庫県篠山市 (獣害対策と地域再生)		○	○			◎	○	○	鈴木
	タンザニア・セレンゲティ (国立公園と獣害対策)		○	◎			○		○	岩井

# 本科研

	多面的な 価値	順応的な プロセス・マネ ジメントの技法	評価	研究者・ 外部者 の役割	順応性の 傾向と対 策	環境史 の技法と 役割	.....	.....	.....
自然再生									
自然資源利 用									
野生動物管 理・獣害対策									
産業(農林水 産業、観光)									
再生可能エ ネルギー									
災害・防災・ 復興									
開発問題									
.....									
.....									



## 本科研で考えたいこと

**(1)** 引きつづき、順応的ガバナンスの要件＝順応性を保ちながらプロセスを動かしつつづけられる要件、の探求

**(2)** それ以外の探求

**(2-1)** 順応性以外の軸の探求

**(2-2)** 社会学(社会科学)2.0へ

**(2-3)** 他に探求すべきテーマ。また、新しいフレームワークの提示



## 順応性以外の軸の探求

- 「順応性を保ちながらのプロセス・マネジメント」が当てはまる分野と当てはまらない分野。
  - 順応性が鍵にならない分野もあるかもしれない。それは何か？

リスクが過度に大きいところでは適用できない？

権力関係が大きく存在するところでは適用できない？





## 本科研で考えたいこと

(1) 引きつづき、順応的ガバナンスの要件＝順応性を保ちながらプロセスを動かしつつづけられる要件、の探求

(2) それ以外の探求

(2-1) 順応性以外の軸の探求

(2-2) 社会学(社会科学)2.0へ

(2-3) 他に探求すべきテーマ。また、新しいフレームワークの提示



# 社会学(社会科学)2.0

- 本研究プロジェクトの社会的意義と課題
  - 環境系の社会科学の中での方法論的意義
    - それぞれのフィールドからボトムアップで理論化
    - フィールドワーク・質的調査中心
    - 地域の生活・営みと政策論とを往復する方法論
  - 実際の政策や実践との懸け橋がまだ弱い
    - 懸け橋のあり方自体も今後検討の必要



# 社会学(社会科学)2.0

## 社会の順応性と社会学(社会科学)の革新

- 「社会 (the social)」の重要性・複雑さ・順応性(制度ではなく社会を。科学ではなく社会を。経済ではなく社会を)  
→ 「社会 (the social)」そのものの順応性を生かしながらプロセスを作っていく
- 順応性を考えることと「社会 the social」を考えることはイコール。なぜなら「社会」にはそもそも順応性が備わっている。その社会の順応性を引き出す、社会の順応性が発揮できるような方策を考えること。狭い意味での経済、制度、政治に還元されない**the social**を前面に出す。
- では「方策を考える」とは？ 伝統的な社会学ならその順応性を解明する、分析する、ということに向かいそうだが、そうではなく、社会の順応性を発揮させることに資する(広義の)ツールや枠組み(研究)を考える(たとえば評価ツールなど)。ここに(環境にかかわる)社会(科)学の方法論の革新も期待できる。狭義の政策科学、規範科学ではなく、ツールとしての社会科学。



## 本科研で考えたいこと

**(1)** 引きつづき、順応的ガバナンスの要件＝順応性を保ちながらプロセスを動かしつつづけられる要件、の探求

**(2)** それ以外の探求

**(2-1)** 順応性以外の軸の探求

**(2-2)** 社会学(社会科学)2.0へ

**(2-3)** 他に探求すべきテーマ。また、新しいフレームワークの提示



## 本科研で考えたいこと

(1) 引きつづき、順応的ガバナンスの要件＝順応性を保ちながらプロセスを動かしつつづけられる要件、の探求

本日ここにどんなテーマがあるか議論したい

(2) それ以外の探求

(2-1) 順応性以外の軸の探求

(2-2) 社会学(社会科学)2.0へ

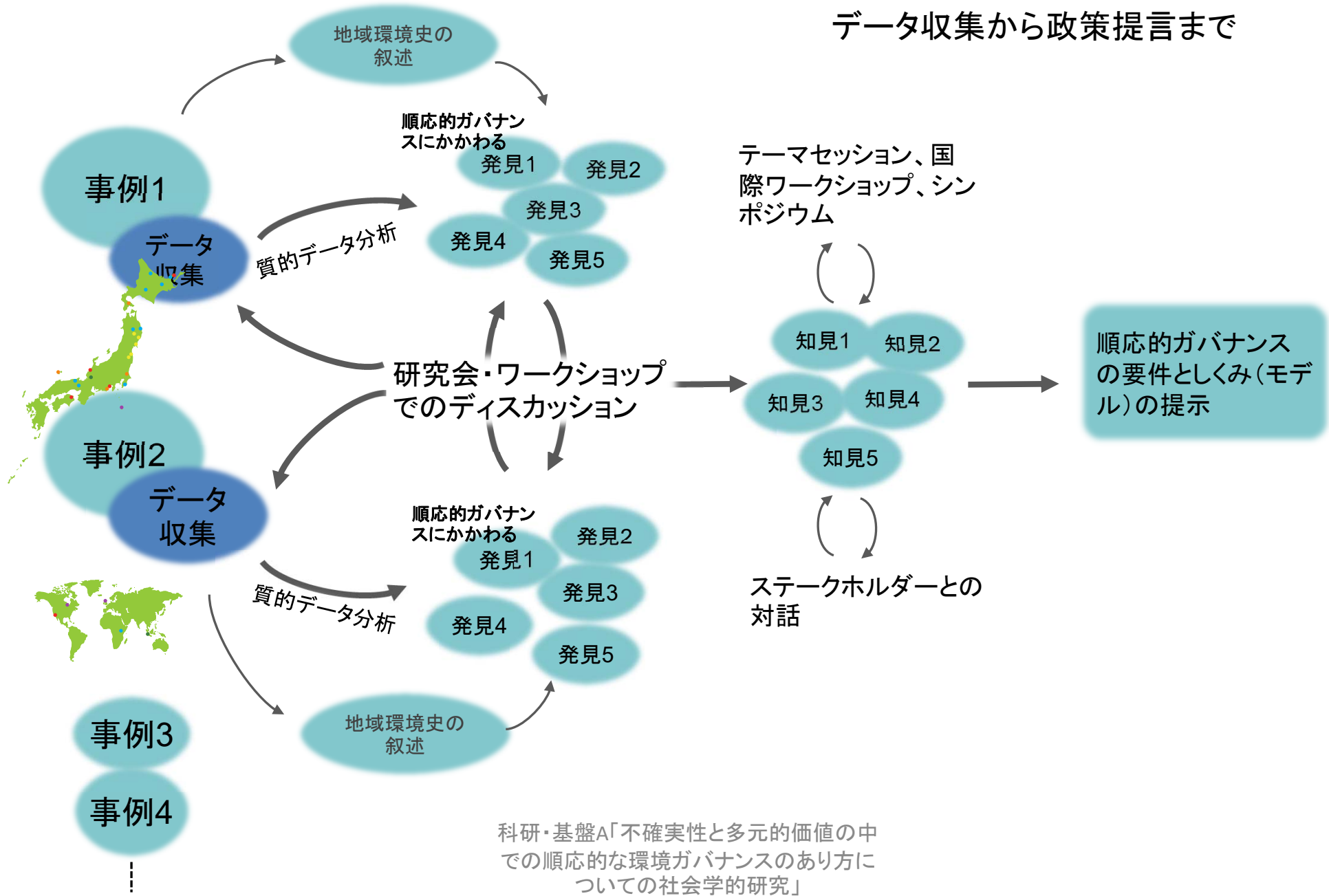
(2-3) 他に探求すべきテーマ。また、新しいフレームワークの提示

ここもどんなテーマがあるか議論したい



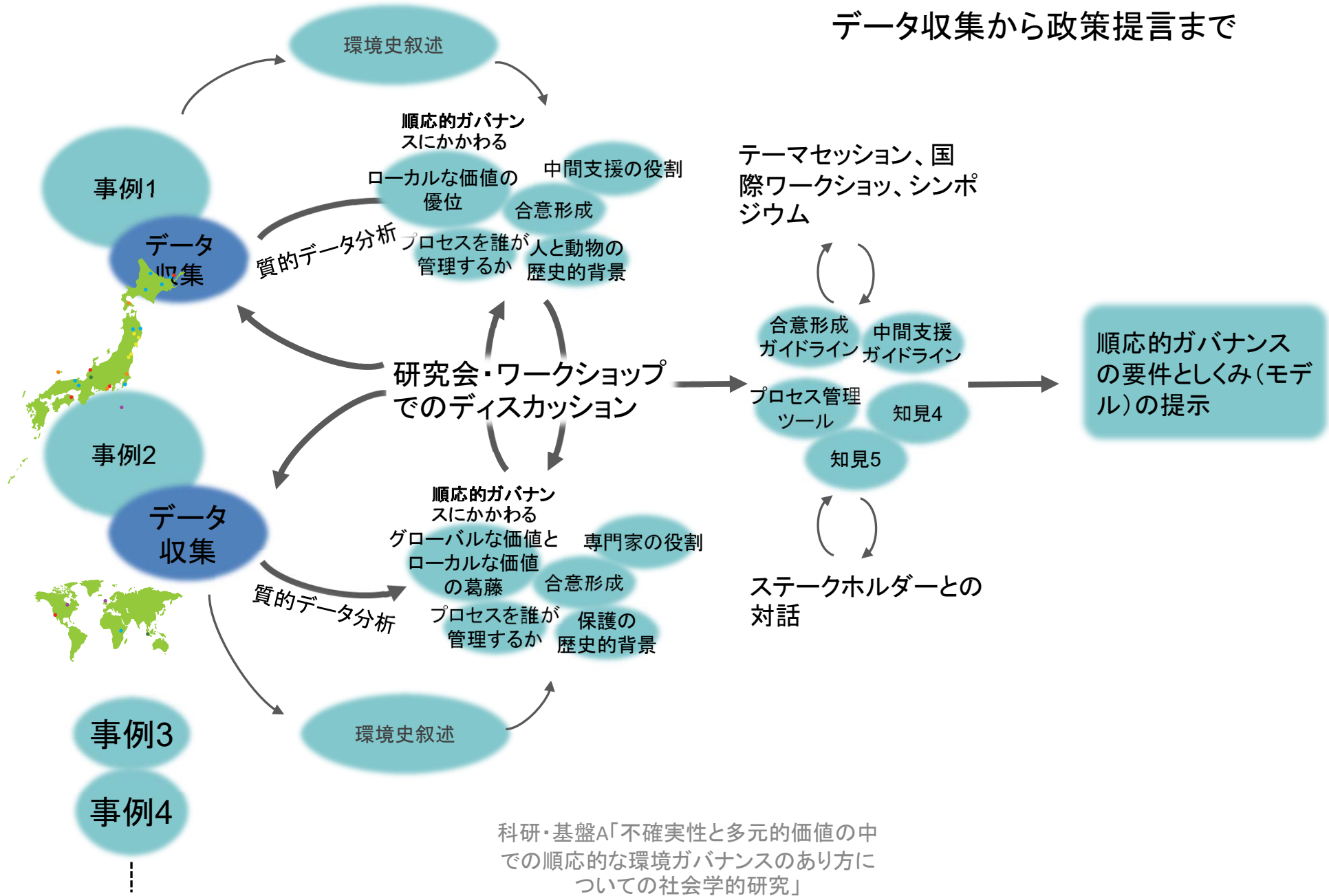
# 研究プロジェクトの進め方

## データ収集から政策提言まで



# 研究プロジェクトの進め方

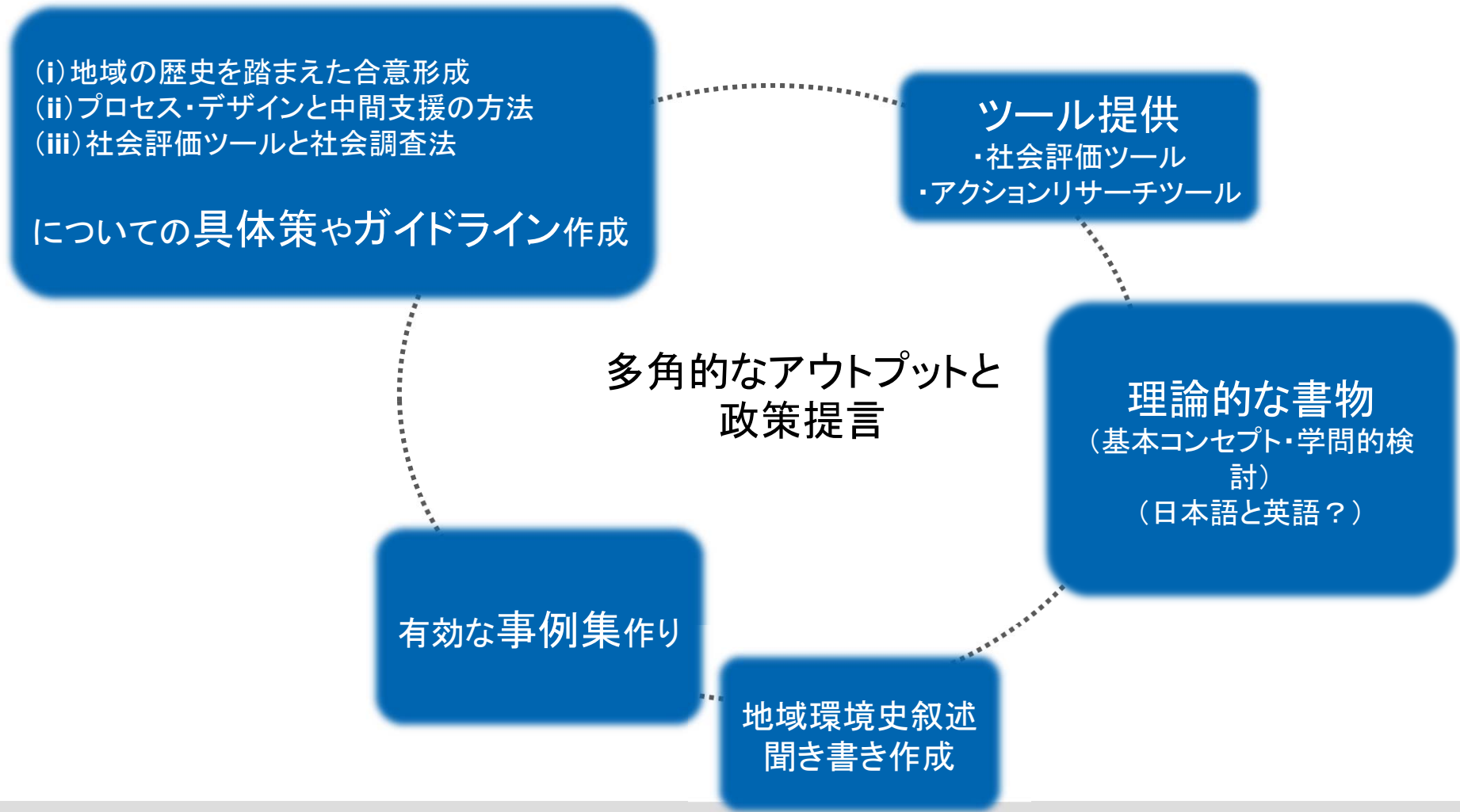
## データ収集から政策提言まで



- 9月8～10日
- スコットランド・エジンバラ大学でのワークショップ
  - 9月11～12日 : スコットランド フィールドトリップ
  - 9月13～16日 : 湖水地方フットパス視察



# アウトプットのイメージ



# その他

- ホームページ
- <http://junno.jimdo.com/>

北海道大学 科学研究費 基盤A

このサイトは、科学研究費による研究プロジェクト「不確実性と多元的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究」について紹介するサイトです。

不確実性と多元的価値の中での  
順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究

このプロジェクトについて

## 研究会の動画・PowerPointを共有・公開します

このプロジェクト

この研究プロジェクトは、科学研究費・基盤研究（A）による「不確実性と多元的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究」という研究です。環境社会学などいくつかの学際的なプロジェクト・メンバーによる共同研究です。

この研究プロジェクトの目的は、多くの不確実性がかかえ、多様な価値が存在する現実社会の中で、いかに環境ガバナンスの構築を実現させるか、その要件を多数の事例における社会学的調査から積み上げ式に明らかにし、さらにそれに基づく政策提言を行うことにあります。

具体的には、自然資源管理、野生生物管理、再生可能エネルギー、災害・復興といった多様な事例について、地域に分け入った詳細な調査を行うことによって、ボトムアップでの環境保全に求められる諸課題を抽出してモデル化します。

とくに、(i) 地域の歴史を踏まえた多様な合意形成の方策の研究、(ii) 順応的なプロセス・デザインの方策立案の中での中間指標のあり方についての研究、(iii) 多様な主体が携わる社会評価のあり方



これまでの共同研究（この科研より以前の共同研究です）の成果を2013年に『なぜ環境保全部はうまくいかないのか：現場からの「順応的なガバナンスの可能性」』（新泉社）という本にまとめました。

現在、2015年度までの科研に

## その他

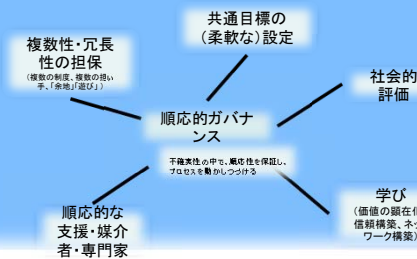
- お互いの研究動向を知るために
  - **Facebook**での交流



# 本日(2016.7.13)の目標

## 目標1

この科研の大枠のフレームワークを共有すること



## 目標2

この科研で今後議論になりそうなキーワードをたくさん生み出すこと

